306

(1)

加速度 $a = 0^m/_{s^2}$ なので、

推進力Fと抵抗力Dは等しい。

抵抗力Dは、重力と動摩擦力の和なので、

$$F=D=mg\sin\theta+\mu mg\cos\theta=mg(\sin\theta+\mu\cos\theta)$$

$$m=5.0\times10^3kg \quad , \ g=9.8\,{}^m/_{S^2} \ , \ \theta=10^\circ \ , \ \mu=0.20$$

を代入して、

$$F = D = (5.0 \times 10^{3}) \cdot 9.8 \cdot (0.17 + 0.20 \cdot 0.97)$$

= 1.78 × 10⁴ N

(2)

仕事率をpとすると、

$$p = Fv$$
 より、 (仕事率と力・速度の関係式)

$$F = 1.78 \times 10^4 N$$
 , $v = 6.0 \, m/s$

を代入して、

$$p = 1.78 \times 10^4 \cdot 6.0$$

$$= 1.07 \times 10^5 W$$

$$= 1.07 \times 10^2 \, kW$$

(3)

1 秒当たりに熱量Qが生じるとすると

Q[J/s]は、毎秒の重油を消費する量と重油の発熱量の積で表すことができる。

よって、

$$Q = (6.3 \times 10^{-3}) \cdot (4.2 \times 10^{7})$$

= 2.65 \times 10⁵ J/s

$$\eta = \frac{p}{\rho} \ \text{LD}$$

$$p = 1.07 \times 10^5 W$$
 , $Q = 2.65 \times 10^5 J/s$

を代入して、

$$\eta = \frac{1.07 \times 10^5}{2.65 \times 10^5} = 0.40$$

よって、このエンジンの熱効率は40%となる。